

刊行にあたって

この本は、歯科医院の経理や財務を担当する、いわゆる専任者のために書かれたものではない。

金融のプロや税金のプロが書いた専門書を下敷きに、歯科医院経営の税財務面をわかりやすく網羅的に解説した百科事典のような本もあるが、そういうものでもない。筆者はファイナンシャル・プランナーでもなければ税理士でもない。いわば税財務のプロではない。ただ、縁あって歯科界には長くお世話になってきた。

建築不動産を通して、金融を通して、組織活性や人材育成を通して歯科医院経営との付き合いは今年で32年の長きにわたる。そういう意味では、『歯科医院経営のコーチ』としてのプロを自認はしている。

そんな人間が歯科医院経営者である歯科医師のために書いた、“歯科医院を生かすためのお金の本”である。したがって、お金について書いた本ではあるものの、通常掲載されているような税財務にまつわる計数的資料や統計数字などはない。あえて偉そうに言えば、“人文科学的歯科医院経営財務論”のようなものであると理解してほしい。

お金の問題は貨幣経済の下、我われ人間が生きていくうえでの最も重要な問題の一つである。それは実業家であれ、サラリーマンであれ、学者であれ、開業医であれ、職種によってその重要性の軽重が問われるものではない。にもかかわらず、とくに医療人はお金に対してある種の清廉性や恬淡性を求められてきたし、現に求められてもいる。それは一種の社会的偏見と言えなくもない。

そのような社会の色眼鏡が、歯科医師をして真の歯科医師たろうとすること、すなわち職業人歯科医師として存分に腕を振るい、正しいと信じる医療活動を行い、真っ当な対価を得ながら真の社会貢献をしようとするのを阻害してきたように思えてならない。

そのような独特のスクリーンのかかった歯科界のなかで、歯科医師として医院経営者として意義ある人生を送るうえで、お金の問題にどう対峙し、どのように動かしていけばよいのかについて書いた。

長い間、同じ歯科界にありながらも、少し離れた位置から時には冷ややかに、時には渦中に入って熱く歯科医院経営を見つめてきた人間として、「ここを間違っはいけない」、「ここはお金を使うべき」、「今は財布の紐を締めるべき」、「それはゼニカネの問題ではないだろう」

などということを些か上から目線で書いたものであり、いわゆる『得をするための指南本』ではない。したがって、そこを期待されても困る。

しかし、その考え方ややり方は小ずるいぞ、汚いぞといった批判を受けることだけは避けたいと思ってきたし、自らが自分に対して投げかけることのないようにだけは心してきたつもりだ。

歯科医療は、数多ある医療サービスのなかでも『希望をつくる医療』であると言いつけてきた。だが、今の多くの歯科医院はそこまでの魅力を持ち合わせてはいないし、提供しようとしているようにも思えない。そこで働く人たちもそこに気付いていないようにみえる。

「コンビニより多い」「5人に1人がワーキングプア」構造不況業種の典型のように言われたままでいいのか。歯科医院は希望に満ちた、希望をつくり出す、もっと輝く存在になるはずだし、ならなければならぬ。

歯科医院経営者である歯科医師は、自らが希望を持ち『希望をつくる医療』の担い手となる目標を立て、そこに魅力と誇りを感じて結集してきた人々と、歯科医院という組織と、その双方を育成するためにお金をどう産み出し、どう生かしていくかを考えてほしい。

そのような歯科医療人たちに、一つの指針を与えることができれば本望である。困ったとき、判断に迷ったときは、ぜひ拙書を開いてほしい。今まで出会った素晴らしい歯科医師やスタッフの考え方ややり方も多く取り入れながら、自分自身の30余年の経験とコンサルタントとしての気概のすべてを投じたつもりだ。インターネット検索では得られない“生きた回答”が得られることと思う。

存分にアンダーラインを引き、書き込みを行い、それぞれの歯科医院のオリジナル経営マニュアルを作成してほしい。一般的な電子書籍にはない“本”モノの醍醐味として生かしていただけたら最高だ。また、項目ごとにそのポイントともいべき要点を特記した。筆者が言いたいことのエッセンスをまとめたものである。これも大いに活用してもらえるとありがたい。

端無くも、本書が歯科医院経営にとっての“希望の書”となれるならば正に望外の喜びとするところである。

宮原秀三郎